

# 今日の幼稚園教師

L・W・ベンナー

帆足喜与子訳

## 今日の幼稚園の哲学

幼稚園の歴史は、初期の幼稚園が幼児の本性に関する哲学者の思索思想の上にすぎずかれたことを教えております。今日では私たちは教育の綱領を思想の上ではなく、むしろ科学的知識の上にすぎずいております。科学的知識の進歩の結果として、今日教育者は活動が幼児の行動の著しい特色であって、抽象的思考や思索というようなものでないことを認識しております。学習は精神的過程であると同じく、また身体的機能としてもあらわれます。活動は幼児が神経系ならびに筋肉を発達させようとする要求をみたすのです。幼稚園の先生は子どもの活動の欲求をよく気づいて知っております。何かあるときに先生は、小さなもそもそごそ動く子どもたちをじっとさせ、静かにさせようと苦心した経験をお互にもっているものです。それほどに彼らは活動的であります。

今日、私たちは経験することによって学ぶと信じています。これこそ今日の幼稚園教育の哲学の真諦となっております。幼児はそのあらゆる感覚をとおして学ぼうと欲しております。

彼は貝がらが硬いか軟いかを知るために、ざわりたいのです。

彼は太陽の光が明るいかうす暗いかを知るために、見たいのです。

彼は鳥の歌がにぎやかであるか静かであるかを知るために、聞きたいのです。

彼は花の香がよいにおいかそうでないかを知るために、かぎたいのです。

彼は果物が甘いか酸っぱいかを知るために、味いたいのです。

誰かが、こういうことをただ教えるのではなく、彼は自身自身が経験することによってそれらを学ぶのです。

遊びもまた子どもの学習の手段です。それは幼児の最上の教育手段の一つであります。

彼らは遊びをとおしてまわりの世界について多くのことを学びます。さきに述べた感覚的経験はしばしば遊びの中に学習されるのであります。

今日有力な発達の観方は、個々の子どもは独自の存在であり、彼自身の成長の速度をもち、自身のパーソナリテイの型をもっているということとを教育者は信ずるということの意味しています。先日、私はお茶の水の幼稚園で大勢の五才児のグループにお目にかかりました。彼らはほぼ同じ年令であるにもかかわらず、身長には非常な差がありました。小さい方から大きい方へとまるで階段のようでした。これは成長の速度の差のよい例です。教育者は子どもが独自の人間として成熟するに有効な指導を必要としていることをよく知っております。今日私たちは教育は未来のための準備を強調してばかりいるよりも、現在の興味と欲求をみたところに展開させるべきだと信じています。

私たちは発達の各段階にじゅうぶんに、そして豊かに生ききっている子どもが未来のための最上の準備をなしつつあると信ずるものです。そうしてはじめて、彼は次の段階にまた立派にやってゆくことができるのです。

## 近代的幼稚園の機能

近代の幼稚園は、家庭の足りない点を補うためにつくられています。いかなる幼稚園も家庭の代りをすることはできません。しかし幼稚園は幼児に必要な物で家庭が与えることのできない物をしばしば与えることができます。東京やニューヨークのような都会生活では遊び場や遊び友だちのないことが多くあります。幼稚園はこういうものを補いますが、これらは成長しつづける子どもにも必要欠くべからざるものです。……幼稚園は家庭が通常そなえることのできないような教材や設備をもってあります。……また幼稚園は先生とのまじわりによって、他人を権威のしるしとして受け入れることを学ぶ機会を与えます。……幼稚園ですべての時間を子どもの学習のために捧げている先生は、親が忙しくて与えられないが必要とされる、いろいろな機会を提供しているのです。幼稚園は子どもの身体的、社会的、情緒的、知的成長と発達を助長する役目をもってあります。

健全な人格の発達は幼稚園において促進されます。といえますのは、ものごとをほんとうに仕上げるというのはどういうことかを感じとる機会が与えられるからです。ものごとができるのだ、仕上げられるのだという満足感成長の過程においてたいへん大切なのですが、これは幼稚園時代につちかわれるものなのです。ところで仕上げるということは、はたの人がこうさせたい、こうしてほしいな

どとして規準をきめることではなくて、子どもの能力との関係においてあるのです。

## 幼稚園児

皆さまがたは幼稚園の先生でいらっしゃいますので、この年頃の子どものことはよく知っていらっしゃいますでしょう。私が強調したいのはあらゆる年齢において二つの原則が存在するという事です。第一は発達の各段階内に大きな類似点があるということです。

アメリカでは「一つさやの中の豆ほどに似ている」ということばがあります。私は存じませんが、日本にも同じようなことばがあるでしょう。

わたしたちは通常幼稚園児が同じくらいの量のたべ物をたべ、同じくらいの睡眠時間を取り、同じような遊びに興味をもち、家族や、お友だちに対し同じような関心をもち、自分自身について同じような気づかいをしたりすることを知っております。第二の原則は大きな類似点がある一方、また大きな相異点があることです。子どもはともよく似ていますが、「同じものは二つとない」といわれるように完全に似ているという事は不可能です。

ここで、私の教えた二人の男の子のお話をしたいと思います。この二人の話は二人の人間はいかにちがうかを示すよい例です。この

子どもたちは四才の一卵性双生児でした。ご承知のように一卵性双生児ほど似ているものはありません。二人は同じお父さんとお母さんを持ち、同時に生れ、同じとみられる環境の中に育てられているのです。この二人の子どもはトムとジムと申しましたが、いつも同じ服を着て、見たところ似ており、同じおもちゃを持っています。どっちの子が誰だか区別するのが私にはむずかしいものでした。……

さてある日、二人が二人死んだ青椋鳥（*Cyanocitta stelleri* アメリカの小鳥）をもって幼稚園にやってきました。私は二人の子どもが同じように死んだ鳥をもってくるなんて、どこまで二人は似ているのだろうと本当に驚きはじめました。けれども毎日まいにち彼らの先生をしていて彼らをだんだんよく知ったときに、彼らはまったく個々の人間であってお互にとてもちがっていることを発見しました。トムは機械的なことに興味をもっていて、ドアというドアなど動くものというものを動かしてまわりました。彼はトラックやでん車が大好きで、それがどうやって動くのかを知りたがりました。ジムは芸術的なことが好きで、絵をかくことや本を見ることが、音楽をよろこびました。二人が家の絵を描いたとしますと、トムのは単純なふつうの家で、上に煙突がついているというふうなものなのですが、ジムのはきれいに彩色されていて草花が生え、おひな様と青空がある。そして煙突からは煙がゆるやかに流れ出ているといった具合の

ものです。子どもたちのちがいがい、つまり個性というものはまさに幼い子どもを教えるものの喜びであります。

## 幼稚園の先生

先生は家族外の人で長い期間一しょに時を過す恐らく最初のおとなとして子どもたちにとって重要な人物です。この長い期間は子どもが物事の影響を非常に強くうける発達におけるいわゆる形成段階にあたっております。ですから先生の人格や、先生が子どもと一しょに仕事をする仕方はたいへん重要です。幼稚園の先生は子どもとの学校生活を、たくさんのかつことを学ぶ年代としてばかりでなく、彼にとってほんとうに楽しかった時代として記憶される年代とする皮きりをする人として重大な責任をもっております。

幼い頃の習いかたというものは後の学校生活での学習態度を色づけるものです。幼稚園の先生の特有な責任のいくつかを次にあげます。

一、よいお手本を示すこと。幼い子どもの学習は間接であることがあります。先生の声、態度、ほほえみというような生活に對する全体的態度がすばやく子どもたちにまねされるのです。

二、お友達関係について助けてやること。幼稚園は元来、社会的場面でありますから、他人も権利や感情をもっており、それ

が尊重されなければならぬことを学ぶすぐれた場所です。三、しかるべき制約や統制を認めてうけ入れるようにしてやること。社会は制約や統制のある行動の規則によってできております。わたくしたちはこれを「法律」と呼んでおります。幼児は法律というものは人々のお互の福祉のためにあるのだということを学ぶ必要があります。幼稚園にも規則や制約があります。人は幼い時代に、いつでもよいところや、してもよいことに関する制限のあることを学ぶのであります。

四、子どもたちに自分の感情をうまく処理することを学ばせてやること。何の問題もなく子どもが大きくなるということはありえないでしょう。通常は問題が起つてもこれは深刻なものではないのですが、先生の助けと指導によつて子どもは問題にからむ感情を処理し健全なやりかたで解決へとすむことがのできるのです。

五、子どもに責任をもつようにしむけること。子どもの仕事は単純そうに見えますが、それらは幼稚園の程度において責任をとることを学ぶのに全くよい機会です。子どもが自分でできる年齢がきたらオーバーを自分でぬがせ、歯を自分でみがかせ、御不浄に自分で行かせ、手を洗わせるというようなことをいわれないでするようにさせなければなりません。子どもたちはこういう責任を負うものです。

六、音楽や芸術的な事柄やお話をとおして、学習させること。先生はまた、寒暖計や時計や磁石などの知識や理解を助け物事に意味を付与する道具を用いることによって、まわりの世界について学ぶことの助けをいたします。

七、新しいことを用いることによって語いをふやしてやりま  
す。同時に先生はすでに用いられている日常語がはつきりし  
ていて意味深いことを心得ていなければなりません。

著名なアメリカの教育者であるポール・ウィッティが小学校及び  
中学校の生徒に質問してなした研究がござります。ウィッティは生  
徒たちに次にあげるような「生徒にとつて最もよい先生」の特性の  
項目に重要さの順位をつけさせたのです。これはもつと年長の子ど  
もがふりかえて考えたものですから幼稚園時代の先生をも含んで  
いることは疑い入れません。その結果を申し上げますと、重要さの  
順位は

- 一、進んで協力するという民主的態度
- 二、人のことを考える思いやりのあること
- 三、忍耐
- 四、ひろい多方面にわたる興味
- 五、感じのよいこと
- 六、公平であること
- 七、ユーモアを解すること

八、行動に一貫性のあること

九、子どものもつ問題に興味をもつこと

十、可塑性、すなわちその場に適應する能力

十一、承認や賞讃の手段を用いること

十二、課目を教えることの上手なこと

先生は子どもの一人ひとり幼稚園のお友だちの中で次にお話す  
る子どものように感ずるように日々のことをせいっぱい計画する  
責任をもっています。その子は私が教えている大学の幼稚園の五才  
児でしたが、彼がある日家に帰って「ボビー、幼稚園たのしかった」  
ときかれたとき、ボビーは答えました。「ええ、お母さま——、僕足  
の底からお空の上の方まで楽しかったの。幼稚園でたのしくする子  
どもを神様はよろこんで下さるのね」

本日は皆さまにお話しをすることができ、まことにありがたく光  
榮に存じました。今後五ヶ月東京に滞在します間に皆さまがたに親  
しくお目にかかる機会があることをねがっております。

\* \* \*